

Ⅲ. 自由記述のまとめ

Ⅲ-1. 総括

自由記述については、かなり多くの学生が回答を寄せており、全回答合わせて約12,800件の記入があった。回答の傾向は、コース・科目・メディア等（さらに、年齢や職業も関係しているのだろうが）によってその言わんとするところは異なっている。

これらの自由記述における意見を読み込み、記述内容を分析することで、彼らの要望や志向、興味や学習意欲など、さまざまな情報を得ることができる。しかし、数が多いのでそのすべてをここに列記することはただ煩雑を増すだけである。個々の回答については、全ての回答の原文を査読いただくとして、ここでは学生の意見の全体像を俯瞰するために、前年度に倣い、自由記述に記入された意見を傾向ごとに分類・集約した。

集約方法は、コース（プログラム）ごとに、その科目を受講して①「よかった点」②「気になった点」を、その意見内容の傾向によって分類整理し、さらにそこから「改善点の提案」を抽出した。

さらに、留意しておきたいのは、入学試験のない放送大学の性質上、受講生の素養や理解度のレベルにはかなり大きな差があるということである。加えて年齢の問題も関係してくる。実際に「老齢なので、小さい文字が読めない。」「新しい言葉はわからないので説明してほしい。」「記憶力が衰えているので、記憶力が問われるテストは困る。」「論述ではなく選択式にしてほしい。」等の意見が目立つ。また、同じ科目であっても、「難しすぎる」「もっと高度な内容にしてほしい」という意見が並列することもある。普通の大学では、このような要望を目にすることはあまりないと思われるが、放送大学では頻出している。以下の自由記述のまとめは、以上のことを踏まえたうえで参考にしていたきたい。

まず学部の科目全般を集約すると、「よかった点」として以下の意見が多く見られた。

- 勉強になった、役に立った
- 知識の整理・深耕に役立った
- 今後の人生や仕事・生活・学習に役立つ
- 基礎的な知識を得られた
- 視野が広がった、視点・考え方が変わった
- 学ぶきっかけとなった、考えるきっかけとなった

全体的に要約すれば、「教養の深まりと広がり」「知的好奇心の喚起・知的欲求の高まり」「実生活への反映と実践」に寄与したことが高評価の3大要因となっている。

その他、「学校側の対応が良かった／学習センターや図書館が良かった／受講しやすい環境だった、システム面が良かった」等、放送大学の存在や体制に対する好意的な意見も目立った。

次に、放送授業のよかった点としては、以下の意見が多かった。

- 分かり易く講義していた
- 講師の熱意や人柄の良さを感じた
- 講師以外の人や複数の専門家の話を聞いた
- 現場取材やインタビュー、実験があつてよかった
- 映像や写真が多用され、分かり易かった
- 放送授業と印刷教材の内容が異なった（同じだった）

「講師が分かり易く熱意をもって講義すること」「ビジュアルや音の要素を活用し、面白く見せる・聞かせること」「印刷教材との連動性・補完性に留意すること」の3つが、放送授業の高評価につながる要素と言えるだろう。

印刷教材については、以下が挙げられている。

- 引用・参考文献の紹介、練習問題が良かった
- 体系的に良くまとまり、整理されていた
- 放送授業と内容が連動している
- 放送授業と異なる情報が得られた
- 読み物として面白い内容だった
- 図版や表が役に立った

要約すれば、「分かり易く面白く読める構成と内容であること」「図版や表などでビジュアル的にも訴えかけること」「引用・参考文献の紹介、練習問題でさらに進んだ学習ができること」「放送授業との連動性・補完性に留意すること」の4つがより良い印刷教材作成の鍵となる。

通信指導については、以下が目立つ意見であった。

- 分かりやすく丁寧な指導だった
- さらなる学習のヒントや情報を与えられた
- 現在の学習課題や問題点を知ることができた
- 専門的な内容の指導だった／添削・コメントをしてもらえた

日常的に指導陣とコミュニケーションできない受講生にとっては、「添削やコメントを交えた分かり易く丁寧な指導」「さらなる学習への導き」「問題点を的確に指摘し課題を与えること」が学習意欲を高めるのに、必要となる。

単位認定試験については、以下が挙げられた。

- 単位がとれた
- 試験内容が適切だった
- 現在の理解度、学習課題や問題点を知ることができた

試験に受かるのは当然としても、試験内容については「やりがいのある試験だった」と「簡単だった」、「記述式で良かった」と「〇×式で良かった」が並列されており、受講生によってかなり温度差も感じられる。

一方、科目全般で「気になった点」としては、「よかった点」の裏返しで、難易度、内容や説明の不足、内容の広さ、具体例・事例不足、学校側の対応や設備利用、実生活と学習の調整に関する不満が多かった。

- 難しい、高度すぎる、理解できない
- 内容が浅い、もっと専門性を持たせてほしい
- 内容・範囲が広すぎる、テーマを絞ってほしい
- 現実に活かせる内容にしてほしい
- 内容・講師に思想的偏りがある
- 質問や相談がしたい
- 事前に、講義内容についての詳しい情報がほしい
- 面接授業を実施してほしい、参加しやすくしてほしい
- 各種施設の利用について、充実・改善してほしい
- 費用が高い、過去の受講生などには優遇制度がほしい
- 放送大学の体制改善やイメージアップが必要
- 働く人間や主婦のために時間的な配慮がほしい

難易度に関しては、前期のように受講生の理解度・素養のレベルに差があるので、すべてに対応するのはなかなか困難であろう。「内容・講師に思想的偏りがある」については、「学校側の対応や設備利用、施設の充実度」については、どうしても地域差が出てしまうようだ。「働く人間や主婦のために時間的な配慮がほしい」は放送授業の時間や単位認定試験の実施日時・場所も含むが、今後可能な限り調整することも考えなければならないだろう。

「面接授業を実施してほしい、参加しやすくしてほしい」「質問や相談がしたい」は、学習意欲にプラスして何らかの人的交流の要求ということである。

次に放送授業で気になった点では、以下が目立った。

- 難しい、高度すぎる、理解できない。説明が不十分
- 印刷教材と内容が異なる
- 印刷教材を棒読み、または読んでいるだけであった
- まとめや学習ポイント、総括がほしい
- テレビ、ラジオ両方で対応してほしい
- 録画・録音が無理なので、対策を考えてほしい
- 講師の話し方や発音、講義態度が良くない
- 手話通訳または字幕がほしい

授業についていけないという受講生への対応は難しいが、科目全般にあった「事前に、講義内容についての詳しい情報がほしい」という意見との関連性も考えられる。実際に「最初は、こんなに難しいとは思わなかった。自分の思っていた内容と違った」という趣旨の意見もあった。

「印刷教材を棒読み、または読んでいるだけであった」は非常に多い意見である。講師の意識改革も必要という事が読み取れる。「テレビで受講したい」という要望は多いが、さらに「手話通訳や字幕」がほしいという要望は、今後検討しなければならないであろう。

印刷教材で気になった点は、以下が挙げられている。

- 難しい。文章が回りくどい
- フリガナ、専門用語の説明などがほしい
- 和訳・英訳がほしい
- 文字・図・表・写真が小さい、画像が粗い、分かりにくかった
- 放送授業の参考資料やページデータなども載せてほしい

- 放送授業と内容が変わらない（異なる）
- 誤植がある
- 図・写真・イラスト・表を増やしてほしい
- DVD、CD の添付を考えてほしい

テキストの難易度については、やはり受講者の理解度・素養が大きく関係している。「フリガナ・専門用語の説明がほしい」や「和訳・英訳がほしい」も同様である。

印刷やグラフィックの質を向上させることも必要であるが、関連資料やデータ・ビジュアル面の充実も望まれる。「誤植がある」は、特に数字の間違が多いという記述が目立った。これは、早急な改善が必要であろう。「DVD、CD の添付を考えてほしい」は、放送授業が見れないという人や見逃した人からの要望が多い。

通信指導については、以下の意見が寄せられている。

- 課題の内容・量が的確ではない。
- 指導内容、コメント、対応に不満がある
- 質疑応答がしたい
- インターネットで行いたい
- 放送授業・印刷教材・単位認定試験と内容がずれている
- 提出期間が短い。スケジュールの改善を。

講義の流れに沿った内容で、個人のレベルに寄り添った丁寧な指導が求められている。

単位認定試験については、以下になる。

- 試験内容の設問・難易度に違和感があった
- 問題が多かった。範囲が広がった
- 問題の解答・解説・用紙がほしい
- 試験内容が授業・教材・通信指導の内容と異なった
- 結果通知が届くのが遅い
- 早くに会場を出る人がいて、気にかかる

これらの要望は、主に受講者の学習進度や受講体制に関連しているものである。「難しすぎる」という意見に対して「簡単すぎる」という意見もある程度出ているし、「問題が多かった」という意見に対して、「少なすぎる」という意見も目立つ。また、「記述式がよい」と「〇×式、選択式がよい」のどちらも上がっていた。

「試験内容が授業・教材・通信指導の内容と異なった」には、印刷授業のみで学習している受講者からの意見もあった。また、試験の進行・運用の不備に対しても苦言が見られた。

以上、学部生の意見を大きく集約すれば、以下が求められていると言えるだろう。

- 興味を持てる内容を、分かりやすく、おもしろく講義する
- 丁寧な指導とアドバイス
- 適切な試験でスムーズに単位が取得できる

可能な限り受講者の要望に沿うことが求められるが、これは全体を俯瞰した内容であり、さらに個々の科目ごとに見ていくとそれぞれの差異がみられる。それらを分析し、今後そのカリキュラム編成を見直し、科目に合ったレベルや授業方法の改善に結びつけていきたい。

次に、大学院の集約した結果を見ると基本的には学部と大差なく、サンプル数が少ないこともあり、学部ほど目立った差異を見出すことはできないが、「よかった点」よりも「気になった点」の方が多くなっている。これは、学究の進捗とともに要望も高度なものになっていると考えられる。

まず、全体的な「よかった点」として、知の深まりに喜びを感じている気持ちが表れている。

- 今後の人生や仕事・生活・学習に役立つ
- 新しい知識、知らなかった知識が身に付いた
- さらなる学習意欲がわいた
- 今まで知らない内容で興味深かった。新鮮だった
- 自分の意見・考え持てるようになった
- 分かりやすく、勉強になった
- 体系的によくまとまり、整理されていた
- 添削・コメントをしてもらえた

他、「インターネットで受講できること」を評価する意見もいくつか見られた。

大学院であるから当然ではあるが、それぞれの探求の姿勢と方向性が専門的かつ明確であり、志学の焦点がはっきりしていることが感じられる。

一方、科目全般の「気になった点」としては、内容の高度さにとまどう面とさらなる学習意欲が並列している。

- 難しい、高度すぎる、理解できない
- 関連する科目・基礎科目を開設してほしい
- 分かりにくい、説明・解説が不十分
- 具体例・事例・実践的な内容を増やして欲しい

放送授業で「気になった点」は、以下が非常に多く見られた。学部とほぼ同様であり、放送大学全体としての検討が必要である。

- 印刷教材を読むだけの授業はやめて欲しい
- テレビ科目にして欲しい

印刷教材の「気になった点」では、内容・構成や編集への要望や誤植の指摘が多かった。

- 図やイラストを増やしてほしい
- 誤植があった
- 構成・内容が良くない、面白くない

通信指導での「気になった点」は記述が少ないが、以下が目につくので、さらに丁寧・熱心な指導が求められている。

- 指導内容、コメント、対応に不満がある

単位認定試験での「気になった点」では、相反する意見があるが、高度な試験を期待する声の方が若干優位であった。

- 試験が簡単すぎる、難易度を上げるべき
- 試験が難しすぎる、難易度を下げるべき
- 記述式および記述に関して改善してほしい

以上、大学院ともなると、さすがにある程度学習が進んだ受講生が多いせいも、「試験を簡単にしてほしい」とか「授業が理解できない」という声は全体で極めて少なく、テレビ化への要望を別にすれば、授業そのものへの不満も少ない。印刷教材でも内容・構成や編集への要望が多くなっている。

大学院では、受講する側も高度な教育を求めている。それは、単に講義内容のみならず、学部以上に科目構成の充実や講師の熱意・指導力も必要とされるということである。

受講生も限られているので、教育の頂点としての大学院を目指しつつ、一つ一つの事例に対応することが求められている。